



今回は、あいち小児保健医療総合センター訪問の報告です。

◇ 同窓生の伊藤友理枝先生（救急科医長）を訪問しました！

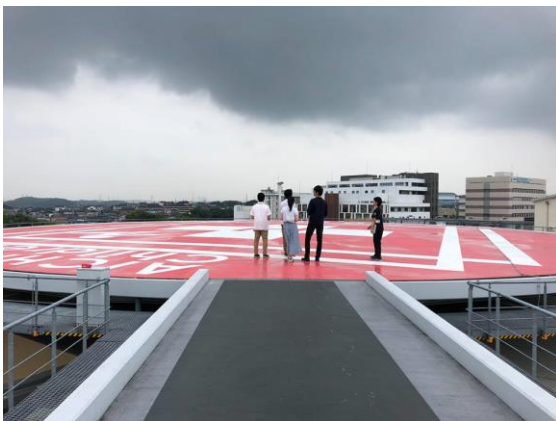
日 時：平成30年6月23日(土) 10:00 ~ 12:00
場 所：あいち小児保健医療総合センター（愛知県大府市） **参加者：**希望生徒4名
担 当：伊藤友理枝先生（あいち小児保健医療総合センター、救急科医長）
内 容：伊藤先生によるセミナー、及び施設見学

◇ 研修当日の様子

あいち小児保健医療総合センター（愛知県大府市）は、全国でも珍しい小児科専門の総合病院。医師をめざす関高生4名が、救急科医長の伊藤友理枝先生を訪ねました。伊藤先生は関高同窓生です。

伊藤先生のセミナーを受けたあと、院内各所を案内していただきました。病棟や様々な診療設備、さらに集中治療室も見学しました。

「小さいのちが闘っている」。集中治療室での伊藤先生の言葉が強く印象に残りました。生まれて間もない赤ちゃんや小さな子どもたち、医療スタッフの皆さん方の姿に、一同を襟を正しました。



◇ 健康の確保と福祉の推進 医療従事者の働きがい 住み続けられるまちづくり



関高 SGH 課題研究では、国連の SDG s を基準にし、テーマを設定を行っています。Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の 17 の目標の中には、健康と福祉、働きがいと経済成長、住み続けられるまちづくりも掲げられています。

◇ 参加した生徒の感想

貴重な時間を私たちのために作ってくださりありがとうございました。

ICU やヘリポートの見学までできるとは思っておらず貴重な体験をすることができました。小児科の医師は子どもの痛みを緩和させてあげるだけでなく、子どもと向き合いながら親から必要な情報を聞き出し、治療していく能力が必要だと思いました。

また、子どもの怪我が事故だけでなく、虐待の可能性も疑わなければいけないことに驚きました。虐待を受けた子どもは身体的だけでなく、精神的にもかなりの傷を負っているはずなので、ただ治療するだけでなく、そういう痛みも理解し、和らげてあげられる医師になりたいと思いました。また、トリアージという患者さんでも見るべき優先順位をつけて治療するシステムは知りませんでした。私は優先順位をつけて取り組んでいくことが苦手でマイペースになってしまいます。しかし、これから生きていく中でも大切であり、将来必要なことなので日頃から意識していきたいと思いました。

先生は迷いながらも小児科の救命救急医になったとお聞きしました。私も何があっても自分の夢は諦めず医師になることを目指していきたいと思います。貴重なお話ありがとうございました。

【お礼】 先日は、あいち小児保健医療センターでの見学や座談会にお招きいただきありがとうございました。私は、第一志望が岐阜大学医学部医学科なのですが、伊藤先生は私たちにフレンドリーに接してくださったり、ドクターヘリや、実際の手術現場 (ICU) など普段は絶対に見ることのできない場所に連れて行ってくださり、2 時間があっという間に感じられました。

また、今回の体験を通じて、医学科に入ることの困難さや、医師としての苦労や楽しみ、さらには、受験生へのアドバイスの言葉もいただき、さらに医師になりたいという思いを確かなものにすることができました。今回の経験を糧に、残りわずかな時間に全力を注ぎ、医師になれるように頑張ります。先日はどうもありがとうございました。

【感想】 今回の貴重な経験のおかげで更に医師になろうという意思が強まりました。しかし、現状その意思がまだ足りないと思った点があります。それは伊藤先生との座談



会の時に私は他の3人と比べて格段に質問の量や、質が低いと感じました。このことは面接に直結し、消極的だとみなされても仕方のないことだと感じました。ですから、今すぐにでも医師になることへの意識を改め、遅れを取り戻したいと思いました。今回の体験では、医師としてのあり方もそうですが、それ以前に自分に欠けていることを見つけることができた良い体験だったと感じています。今回のようなことが今後無いように努力したいと感じました。

今日は忙しい中、時間を作ってくださいありがとうございました。小児科だけの病院に来たのは初めてでとても印象にのこりました。お話では子どもはうまく症状が話せないので考える力やコミュニケーションがとても大切だと改めて感じました。そして、多くの質問に答えてくださり、自分の知識などが増やすことができよかったです。普段入れないところを見学できたこともいい経験となりました。
ありがとうございました。

伊藤先生、先日はお世話になりました。

今回実際に現場で働く医師の姿や先生のお話を聞いて、改めて自分がどのような医師になりたいのかを考えるいい機会となりました。僕は「specialist」ではなく「generalist」を目指しているので、救急医療で搬送車両の電力の知識や酸素ボンベの知識など色々な知識が必要だという話がとても印象に残っています。現場の医師、特に内科は相手のことを考える力、コミュニケーション能力が求められるという話があったので、勉強ばかりするのではなく、人とのコミュニケーションも大切にして今後の受験勉強をしていきたいと思います。あいち小児保健医療総合センターではとても貴重な体験ができました。ありがとうございました。

